

*** 岡山の65cm太陽クーデ望遠鏡のエッセル分光器カメラなどを収蔵**

アーカイブ室では太陽塔望遠鏡室の整備を進めているが、この塔望遠鏡が建設されたのは分光器室が大正15年(1926年)、塔望遠鏡がドイツから購入されたのが昭和3年(1928年)、塔部分が建設されたのが昭和5年(1930年)、そして塔望遠鏡の据え付けがほぼ完了したのは昭和8年1933年のことであった。塔望遠鏡を組み上げたのは藤田良雄先生である。以来諸先生方が太陽の観測に従事されたが、その中でも塔望遠鏡で活躍されたのは末元善三郎先生であった。この望遠鏡は第2次世界大戦中にはシーロスタットの鏡は外され地下室に格納され観測が出来ない時期もあったが昭和40年代初めまで太陽の分光観測に供されていた。完成から30数年、この望遠鏡の後継機として建設されたのが昭和43年(1968年)に完成した岡山天体物理観測所の65cmクーデ型太陽望遠鏡(写真1)である。

しかし、太陽観測の主流は大気圏外からの人工衛星による観測に移り、この65cmクーデ型太陽望遠鏡もその役目を終え、数年前には引退し、そのドームは錆が目立つようになっていた(写真2)。その65cmクーデ型太陽望遠鏡のエッセル分光器カメラが廃棄されると聞いた筆者は、三鷹の展示施設で引き取ることにして、重量物輸送会社に依頼し塔望遠鏡分光室に収納したのである。

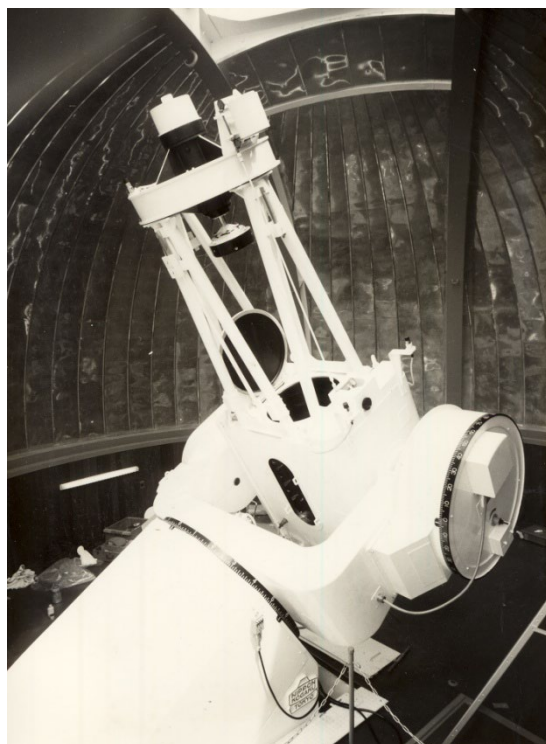


写真1 65cmクーデ型太陽望遠鏡



写真2 錆が出始めた65cmクーデ型太陽望遠鏡ドーム

建設当時の最新の太陽観測装置を持った65cmクーデ型太陽望遠鏡のドームは岡山天体物理観測所の南斜面になったところに瀟洒な姿を見せていた(写真3)。



写真3 建設当時の65cmクーデ型太陽望遠鏡ドーム

岡山天体物理観測所から三鷹に保管を依頼されて到着したものは、次の6点である。

- 1) エシエル分光器カメラ (写真 8)
- 2) マグネットグラフ本体及び架台台車 (写真 9)
- 3) マグネットグラフ受光部 (写真 10)
- 4) CC-TV 3 台 と モニタ 1 台 (写真 11)
- 5) マグネットグラフ制御架 (写真 12)
- 6) その他 (写真 13)

岡山からの輸送を依頼したのは東京の重量物輸送の専門業者で三鷹には輸送会社で積み替えられて写真 4 の状態で到着した。

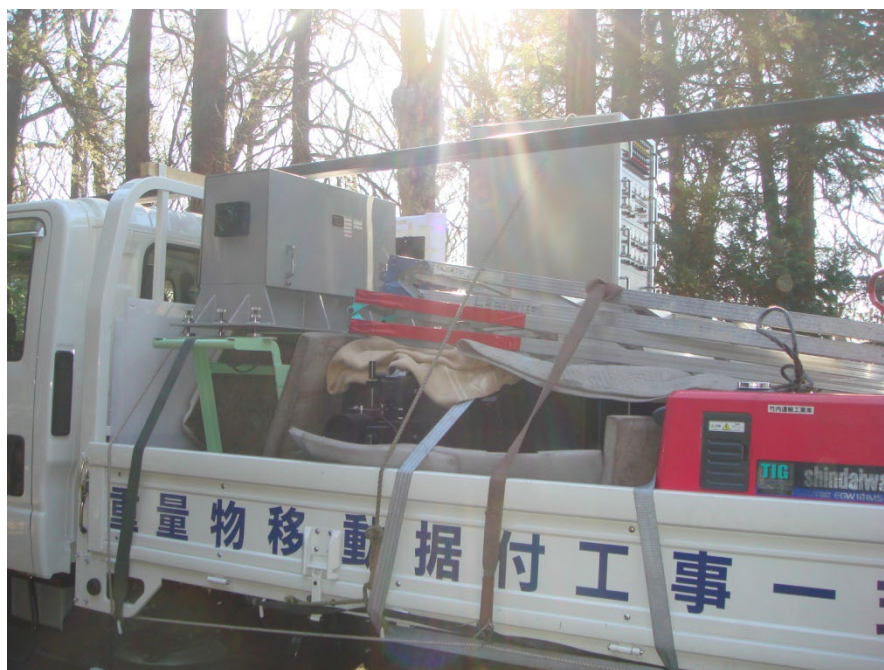


写真 4 積み替えて三鷹に到着したトラック

三鷹での保管場所は、太陽塔望遠鏡分光室（地下室）で、その搬入作業はなかなか大変であった。エシエル分光器カメラは恐らく 300Kg 以上の重量であった。最初は 4 人掛りの人力で地下室に入れる予定であったが、そこは専門家、門型クレーンを持ち込んでの作業（写真 5）となった。



写真 7 門型クレーンを用いた搬入作業



写真8 エッセル分光器カメラ



写真9 マグネトグラフ本体



写真10 マグネトグラフ受光部

これらを搬入した塔望遠鏡分光室は分光器資料室としてまだ整備段階であり、常時公開には供されないが、国立天文台の年1回の特別公開には一般公開するつもりである。早、分光器がたくさん並べられ、分光器資料館のように見えるのである。



写真11 CC-TV 3台 と モニタ 1台



写真13 その他 なんだい!



写真12 マグネトグラフ制御架